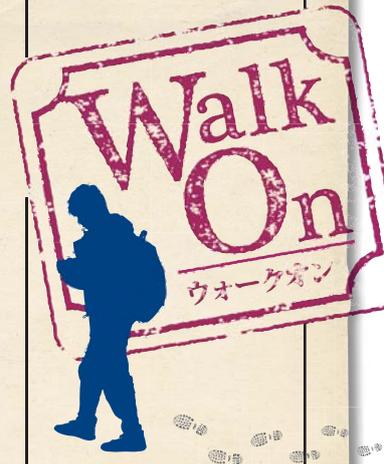




圖(ほ)場整備された棚田の中にボソソとある伏龍祠。左上の写真は「香の里史料館」に展示されているトウヨウゾウの下顎骨と上顎骨のレプリカ。



# 伊香立

伝説と歴史の舞台を歩く

**DATA 大津市**  
 ● 歩行距離▶約5.3km  
 ● 歩行時間▶約1時間30分



**香の里史料館**  
 大津市伊香立下在地1223-1  
 TEL.077-598-2005  
 ◆開館時間 / 9:00~16:00  
 ◆休館 / 月・火曜、祝日、年末年始

この施設では、伊香立の昔ながらの民家を再現し、懐かしい農具や“衣・食・住”の生活用品を展示、かつての農村の暮らしが体感できる。2階にはトウヨウゾウの化石のレプリカの展示やタッチパネルで操作する電子紙芝居があり、「伏龍祠」などの昔話を楽しめる。入館無料。

## 香の里で発見された竜骨の正体とは!?

比叡山系の山裾に実り豊かな田畑が広がる大津市の伊香立。葛川の明王院を創建した相応和尚が、この地を訪れた際、辺りから立ち上る靈香を感じて「伊(異)香立」と名付けたという。

この地を実際に歩いてみると、歴史も伝説も匂い立つてくるようだ。「源氏物語」の主人公・光源氏のモデルとされる源融を祀る融神社、その近くの棚田の一面には「伏龍祠」と呼ばれる小さな祠が残っている。

この祠は、この地で竜の骨が発見され、それを記念して建立されたものだという。文化元年(1804年)、地元農民が谷を開墾中に得体のしれない骨を掘り出し、縁起のいい竜骨ではないかと近

隣でたちまち評判に。この骨を領主に献上したところ、褒美に「龍」の姓とその土地を賜り、その地は龍ヶ谷と名付けられた。

明治の初めに来日したドイツ人科学者エドモンド・ナウマンがこの骨を鑑定し、約40万年前のトウヨウゾウの化石と判明。古代の琵琶湖が移

動中に堆積した古琵琶湖層から出土したもので、日本列島と大陸がかつて陸続きであった証しにもなったという。現在、この化石は東京国立科学博物館に所蔵されているが、下在地にある「香の里史料館」にはレプリカが展示されている。足を延ばしてみるのもいいだろう。

移動中に堆積した古琵琶湖層から出土したもので、日本列島と大陸がかつて陸続きであった証しにもなったという。現在、この化石は東京国立科学博物館に所蔵されているが、下在地にある「香の里史料館」にはレプリカが展示されている。足を延ばしてみるのもいいだろう。



バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!  
<http://www.keibun.co.jp>

**“Walk on”とは**  
 「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。

※安曇川の筏(いかだ)流しの起点であったことが「伊香立」の語源という説も。